

小金井雑学大学

だより

第8号

平成11年9月15日発行

広がる生涯学習活動へ期待する

広がる

『雑学大学』

小金井雑学大学が発足して一年五か月。『雑学大学』という言葉が最初に使われたのは、約二〇年前のおとなり武蔵野市の『吉祥寺村立雑学大学』だそうです。

次に今年四周年を迎えた『西東京雑学大学（当初は「保谷田無雑学大学」として発足）』には、小金井ができる以前に何度か聴講に伺ったことがあります。毎週日曜日に様々な分野の教授が講義をするのですが、すでに一年半以上も先のスケジュールが決まっております。その層の厚さには感心いたしました。

この三つの「雑学大学」に共通する運営方針が、講師料・場所代・受講料の三条件が無料という点で、講師料が無料という条件でもこれだけの人たちが参加する背景には、市民レベルでの生涯学習を求める人たちがいるからに他なりません。生涯学習が行政レベルか

ら民間の企業レベルへ、そして今や市民が自主的に広がっているように思います。

小金井雑学大学は、田部井文雄学長を初め、小金井に住んでいる理事の人たちがそれぞれの人脈を生かして教授を呼び、なごやかな雰囲気です。

教授陣の中でも学問の分野にとどまらず、第一線で活躍の中たとえば芸術分野等の方にも講義をしてもらうというのも特色あるところかと拝見しております。

さらに、この活動をする都由立高校の会議室を使用させていただくことになったのは、学校開放という側面から、市としても望ましいこととらえており、こうした開放が更に他にも進んでいけば良いのではないかと思っております。

今後への期待

何度か講義も聴かせていただきました。市内の教授をお呼びする

時は、地域交流の場づくりとしても意義あるものと思いますので、今後参加させていただくのを楽しみにしております。

また、今年の西東京雑学大学の四周年記念シンポジウムには多摩地域の四市の市長がパネラーとして参加していただきましたが、こうした各市の市政での取り組みや、あるいは政治の分野の講義も、小金井雑学大学で取り組んでいかれるよう今後期待したいところです。

行政が行っている公民館の講座に加えて、地域に市民独自の生涯学習が広がることが、地域住民の知識レベルアップにつながります。市民の知恵と活力が元気な小金井を作るものになります。ますますのご活躍を心から祈っております。

（小金井市長 稲葉孝彦）



第二十八回講義 六月六日

『転んでもタダでは起きない
海外旅行術』

教授 竹田洋香氏

タイトルからすると「おいしいお話」と期待をされると困ります。もちろん実際のな「おいしいお話」もたくさんありますが、今回は海外旅行における精神面の「おいしいお話」を自身の経験を通じてお伝えしたいと思います。

年に数回も旅行をしますと、なるべく経済的に心をかけるようになります。それにはとにかくできることはまず自分で実行してみること。たとえばビザの取得などは、個人では出来ないと思っっている国のものでも案外簡単に出来るものがあります。その結果、多い時には一人八千円とか一万円の手数料の夫婦分が節約できました。経済的なメリットも嬉しいものですが、難しいと思っていたことを自分の力で成し得たという精神面での自信が、オーバーに言えば、その後の人生の取り組み方にも大いに影響してくるようになります。

た。そこから学んだ精神は「ダメも思考」です。まずは何事も自分で実行してみること。もしダメだったら、それから専門家にお願ひすれば良いという考えです。日常生活のなかではとかく「こんなことは自分にはできない」と試してみないで最初から諦めてしまうことがありませんか？私は旅行にこの「ダメも思考」で臨み、ここまで出来るの？と自分でも驚くほどの成果が何度もありました。きつと以前のままの考えでは実現出来なかった利点だと思いません。そして旅では好奇心を全開にすると、自分なりの視点や疑問が生まれ、物事の側面が見えてきます。そんな思いを新聞や雑誌に投稿しますと、ユニークな視点や考えが採用を可能にしてくれます。高額なものはもちろんのこと、ささやかな謝礼も次回の旅行の足しになりますし、なによりも自分の考えが活字になるという励みとともにボケ防止にも役に立ちます。旅をして、楽しかったと終わるだけではなく、旅の経験をさらに発展させて自分の考えや人生をより発展的に考えたいと思うこのごろです。

第二十九回講義 六月二十日

『太平洋戦争への曲がり角
二・二六事件を中心にして』

教授 木村時夫氏

太平洋戦争に至るまでには、いくつかの曲がり角があり、中でも軍部の権力増大のきつかけになった、昭和十一年の二・二六事件は大きな曲がり角であった。日本が大戦に巻き込まれるきつかけになった、日独伊三国軍事同盟締結にいたる国内の政治的变化に、二・二六事件が大きく関わっているからである。

当時軍部には、陸軍内部の規律を求めた『統制派』と、天皇の親政を求め、議会政治・政党政治に否定的な『皇道派』という二つの大きな派閥があった。二・二六事件は『統制派』を軍部から一掃しようとする『皇道派』のクーデターであり、派閥争いの暴発ということが出来る。

昭和六年の十月に陸軍内部でクーデターを起こそうとした十月事件が起き、これを取り静めたのは後の陸軍大臣荒木貞夫であった。『皇道派』はこの荒木貞夫が中心

になって作られ、彼が陸軍大臣になると、陸軍三長官である参謀総長・教育總監・陸軍大臣の三ポストは『皇道派』で独占された。永田鉄山軍務局長などはそれに反発を持っていた。荒木が病気のために大臣を辞すると、『皇道派』が落ち目になったのを嘆いた相沢三郎陸軍中佐は、永田鉄山の陰謀と思ひ、彼を暗殺してしまった。青年将校たちは相沢に続けとはかりに動き出し、決起を決めたのである。

昭和十一年二月二六日早朝、永田町の岡田啓介首相官邸、斎藤実内大臣、高橋是清大蔵大臣、渡辺錠太郎教育總監等が襲われ、身代わりが殺された岡田首相を除き惨殺された。この事件の関係者は一掃され、陸軍は『統制派』が握ることになり、国策大綱に南進が加えられた。さらに陸軍大臣を現役の陸軍中・大将に限るとし、やがて政治を軍が握る道を作った。十一月には、日独防共協定が結ばれ、事実上軍事同盟であり、第二次世界大戦への道へと続くこととなるのである。

『地方自治に携わって五〇年』

教授 大久保愷七氏

昭和二四年四月小金井町に採用され、約五〇年市政に関わってきた。シャウプ勧告で現行の税法が昭和二五年から施行されることになり、自主財源の一つとして国税であった地租・家屋税とその他の自転車税・金庫税・扇風機税・ピアノ税等を統合し固定資産税が創設されたので、その担当職員として採用された。戦後の経済情勢等が厳しい中での新制度の実施であり、試行錯誤で軌道に乗るまで大変であったが、何時の時代も税務行政は厳しいものである。

昭和三二年土木課の係長となり初めての都市計画事業である北大通りの買収にあたったが、奇しくも昭和四三年建設部長になったとき、ある一件の買収が処理できなかったことから、やむを得ず取用法の適用で買収し、漸くにして完成した。

昭和三七年現業非現業を問わず同一年齢同一賃金とすることで組合と合意したが、昭和三七年人事

担当となった。私の在任中は実質凍結とした。その後復活されたが、制度上問題ありとし永年是正が求められていた。平成一〇年に職務給に改正され、約三〇年続いた制度にピリオドがうたれた。

昭和五四年助役に任命され、一番の課題は肥大化した職員数の削減で、当時一一三〇名いた職員数も約百名の減員を昭和六〇年までに行った。昭和六二年市長就任直後は、バブルの最中で減員も足踏み状態であったが、平成七年市長三期目になって、職員二百名の削減を公約とし、平成十一年一九八名減員することで整理ができた。

これで、前述の年齢給から職務給への移行とあわせて行政改革の最も重要課題が解決した。今後の市政の課題は、財政の健全化を進めるなか、中央線連続高架化の起工式が去る三月一八日関係者列席のもとで行れ実現が現実となった今日、これに関連する駅周辺の街づくり、老朽化した二枚橋焼却上の建替え、介護保険の発足準備、少子高齢化時代への市民福祉向上に向けて、市民行政一体でみどり豊かな文化都市小金井を創りあげていかなければならないと思う。

『快適な住まいづくり』

教授 巨理鐵哉氏

快適な住まいの前提条件は、丈夫で安全であることである。どうして欠陥住宅が起きるか。①設計が正しくても問題が起きる場合。②設計に問題がある場合がある。

①の場合は、比較的大手の業者も多い。設計はきちんとしていても、幾重にも重なって下請けに工事を任せるため、現場で労働者が工事業者の下請けになっていて、工事業者が認識不足で設計者の指示に従わない場合もある。

②の場合は、基準を定めた建築基準法をあたかも最高の基準のように取り違えている場合や、木造の構造等を軽視し、一人の設計士が設備電気まで取りしきり、認識の甘さから来る場合もある。確認申請時にチェックされる項目はわずかで、その他は設計者の責任として委任されるのである（木造の場合）。

国や都では対策を考え、法律改正を行い、品質確保促進法を作った。土台や床の保証期間を延ばし

たり、省エネ性、遮音性等も盛り込んだ。施工は来年六月だが、法律改正はたえず利用者と施工者の利害が対立する傾向がある。PL法も業者の猛反対にあつて、紛争処理期間を設けるだけにとどまらず経緯がある。更に建築確認についても今までは申請をして確認が下り、工事完了時に届けを出して、中間ではチェックをしなかった。中間で基礎の配置や骨組みがわかるのである。建設省は中間検査を義務づけようとしたが、東京都では人手が足りず実施していないのが実態である。

更に、快適さという面では、高齢社会の備えでバリアフリーがあるが、トイレのドアは外開きにするとか、浴室は段差をなくすにはある程度の広さを確保するとか細部への配慮が必要になる。高齢になると明るさに対しても通常使用の一・五倍位必要。そうなる電気代との関係もあり、快適さを考える時はライフスタイルや好みの他に、長い目で見てランニングコストも考える必要がある。

他に、住宅のメンテナンス。建物診断の紹介もあり。

今後のカリキュラム

9月19日 「ヨーロッパで見た老人ホーム

—デンマーク・ドイツ・オーストリア・フランス」

小杉山禮子氏（生活評論家・

ヒューマンライフ研究所代表）

10月 3日 「ドイツ帝国とビスマルク」

兵頭信彦氏（元都立西高校校長）

10月17日 （小金井史跡めぐり）

白井康敬氏（日本セカンドライフ協会

集合場所：小金井工業高校会議室

運営委員）

この日は多少実費かかる予定

11月 7日 「中国の経済・社会と国民の生活」 井手俊弘氏（日中経済協会参与）

- ・教室は小金井工業高校会議室。 時間は午後2時～4時。
- ・スリッパをご持参下さい。
- ・学生登録は、年会費2000円。 カリキュラムや学報をお送りします。

お知らせ

- ・教室として使わせていただいている小金井工業高校で、来年度の日程をまもなく決めます。小金井雑学大学では、来年度も今年同様第1・3日曜日に講義を予定していますが、学校行事が入った時は他の場所を借りていました。場所を変えるよりも、第2か4の日曜日に振り替えた方が来やすいのではという意見もあります。この件についての学生の皆さんのご意見をお寄せ下さい。

編集後記

今年の夏は暑い夏でした。九月半ばになろうとしているのに、まだまだ残暑厳しいという気候です。暑さの中、夕立が降ると突然バケツをひっくり返したような雨になり、都心でも浸水の被害が出たりしました。やはり異常気象かなと感じた今年の夏でした。

暑さのせいにするわけではありませんが、学報八号がなかなか進まずようやく発行の運びとなりました。遅くなったことをおわびします。

（五十嵐記）



発行責任者五十嵐京子
小金井市本町

TEL & FAX

（夜間）